裏妙義　谷急沢右俣（遡行）～左俣（下降）

メンバー：落合（宇都宮渓嶺会），松村（宇都宮渓嶺会），荻原（グループ･ド･ミソジ）

2014/05/31（土）晴れ

国民宿舎裏妙義 7：20　稜線登山道 9：45　P3･1,050m 鞍部 11：10　国民宿舎裏妙義 14：30

シーズン事始めで裏妙義の谷急沢へ行ってきた。

県北の沢ではまだ少し寒い気がしたので今年は西上州、日本三大奇勝でもお馴染みの妙義山からシーズン・イン。

予報ではこの週末異常に気温が上がるとの事で、沢日和となるのは嬉しいがヒルが出そうな予感がして対策を入念にして出発。

（結果的には日頃の行いがよく何の被害もなかった）

国民宿舎裏妙義

中木川は下流にダム（妙義湖）もあるが水量は少な目、国民宿舎裏妙義から出発し林道を 20 分程度進み深沢橋から入渓、右俣も水量は少ない。

途中ボルダーが出来そうな巨岩がいくつか点在しており、あえてクライミング的な登りが出来るところを探しながら快適に進んでいく。

何事もそうだがシーズン始めは何か感慨に耽る。

右俣は全体的に 10m 程度の登れる小滝が多く、ホールドも概ね多い。

ただ妙義の岩は脆いのであまり過信して登るとホールドが掛ける恐れがあるので慎重に登りたい（不確定要素があるという意味ではどの沢でも同じだろう。。）

練習のつもりでロープも数回出した、滝はプロテクションに乏しいのでランナウト気味になるがハーケンはよく決まる。

谷急山は妙義山塊の最高峰、山容は地味で全体のイメージからは少し外れているが、P1～P6、ジャンダルム、V 字キレット等の名前が付いていて登山道は妙義山らしく急峻な岩峰をいくつも越えていく。

P2 で妙義の山々が一望出来る展望地がある。

今回は暑さと仲間のリハビリも兼ねていたので山頂は割愛、左俣は P3 の鞍部（1,050m）で傾斜が緩くなったところから下降した。

ツメはどちらも藪漕ぎがないので快適。（沢ヤとしては失格？）

左俣は右俣に比べ水量は多いが滝が少なく変化に乏しいので下降でちょうどいい、釜がいくつかあるのでクールダウン出来る。。

クライムダウン出来ない箇所は（２回）懸垂下降した、今回のルートはロープ 30m 一本で十分だ。

この日は前橋で最高気温 34℃を観測、5 月としては異例の暑さだった。

左俣下降

最後は林道歩きを嫌い登山口の国民宿舎まで中木川を下降しようとしたが、最後堰堤に阻まれ星穴橋で遡行終了。

帰りは登山口（国民宿舎裏妙義）で温泉に入れるのが嬉しい、沢自体は短めだがコンパクトに美味しくまとまった沢だった。

妙義は紅葉がとてもキレイな印象があるので、錦秋の頃にまた違うルートで訪れてみたい。

記録：落合